アーカイブ室新聞　（2011 年 5 月 10 日　第 481 号）

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室　中桐正夫

＊第 476 号の「明治 6 年第 5 月獨和字典」について

アーカイブ室新聞第 476 号（2011 年 4 月 28 日）に「明治 6 年の獨和字典（写真１）を収蔵」と云う記事を書いた。この字典の「序」が漢文、日本語、ドイツ語の３カ国語で書かれており、日本語の「序」もひどく古い文体で書かれていたので、筆者にはよく理解できない

ため誰か読める人はと探していたところ、国文学が専門の方を親族にもっている同僚がいて、この読みづらい古い日本語の[序]を筆者にも読めるようにと、下記の文章にして届けてくれた。また、この「明治 6 年の獨和字典」については研究されている方がおり、論文になっているとその資料を添えてくれた。それらについて記事にしておきたい。

まずは、筆者にも読めるように送っていただいた日本語の「序」である。

獨和字典序

一友人曾テ予曹二語（リ）テ西洋ノ學問ヲ為スニハ才氣ホド害ナルモノハ無シト云シ亅（こと）アリ。当時其意ヲ了（さ）トラズ太ダ（はなはだ）怪（あやし）ミタリシニ近年獨逸學二従事シテ初メテ其事ヲ思ヒ大二発明スル（理解が進むこと）所アリ。蓋シ（けだし）獨逸ノ學問タルヤ専ラ思慮ヲ練ルヲ主トシ一事一物ヲ知ルニモ全編ヲ熱讀坑味（がんみ）スルニ非レバ（あらざれば）其何事タルヲ解スル能ハズ（あたわず）。彼ノ前半葉二問ヲ設ケ後半葉二答ヲ付スル問答學派ノ類二非ズ（あらず）是レ獨逸學ノ最モ學ヒ難クメ（難くして）且我邦人二最モ適当スル所以ナリ。此際二当テ苟モ（いやしくも）自己ノ才氣ヲ揮ヒ蕩々看過スルモノヽ（ものの）如キハ其ノ文字ヲ解スルトモ其意味二通ゼズ其意味ヲ暁リ（さとり）テモ其實固有ノモノト成ラズ學問ト事實トハ自ラニ途二分レテ徒ラニ（いたずらに）ロ耳ノ學問トナルノミ。一字一語ト雖ノドモ数様ノ意味アルモノナレバ之ヲ丁寧二穿鑿シ能ク其義理ヲ明カニメ（明かにして）然シテ（メ）後二章句ヲ解シ全文ヲ

通シ潜思黙慮シテ草々二看過セズ宜シク所學ヲ以テ所得ト為スベキナリ。而ルニ（しかるに）獨逸學ノ我邦二入ルヤ日太ダ（はなはだ）浅ク辞書二乏キ（とぼしき）ヲ以テ予曹浅劣ヲ顧ミズ獨逸教師ワク子（ネ）ル氏二謀り獨蘭獨英及ビホッフマン氏且ツウエベル氏ノ字書ヲ参攷シ和詳ヲ付シテ活版二上シ以テ同志二便ニス。庶クハ（ねがわくば）初學ノ人能ク韋編三絶ノ勞ヲ厭フ亅（こと）ナクンバ予曹此一挙モ亦夕世二寸益ナシトセズ

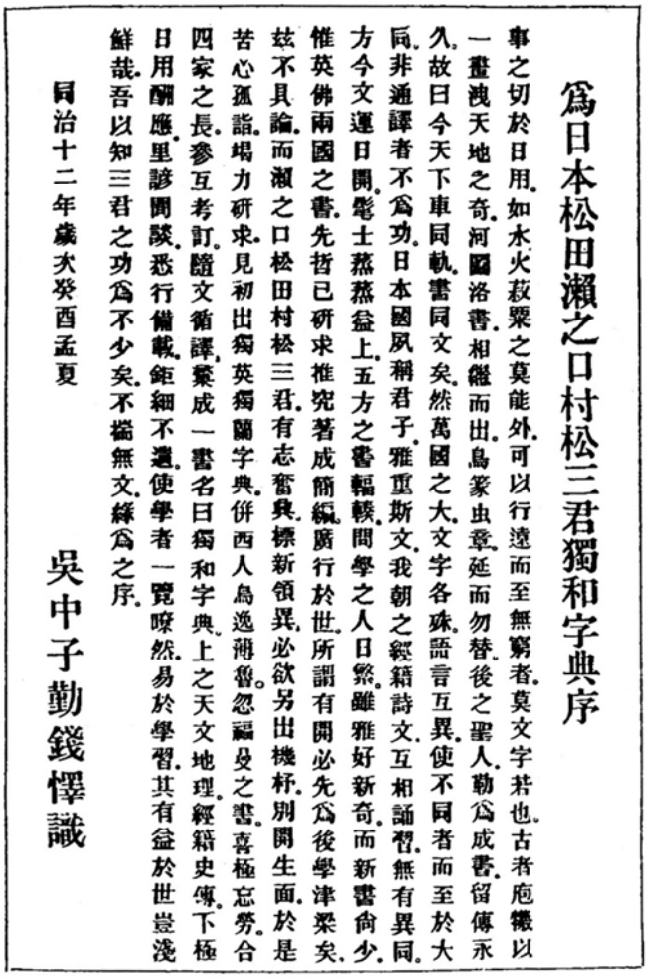
薩摩學生

明治六歳第五月　　松田篤常

瀬之口隆敬

村松経春

この文を送っていただいて、筆者はやっとこの「序」を読む気になり読んだ次第である。一緒に送っていただいた資料は、信岡資生氏による「日独対訳辞書解題（三）（「成城大学経済研究、161」の P1－25）のうち、15 ページまでであった。そこでこの論文の全文を取り寄せて読んでみた。信岡資生氏の論文には、筆者には全く手に負えなかった漢文の「序」の和訳が載せてあるので引用させていただく。まずは、写真 2 が漢文の「序」である。



爲日本松田瀬之口村松三君獨和字典序

事之切於日用。如水火菽粟之莫能外。可以行遠而至無窮者。莫文字若也。古者庖犧以一畫洩天地之奇。河圖洛書。相繼而出。鳥篆虫章。延而勿替。後之聖人。勒爲成書。留傳永久。故曰今天下車同軌。書同文矣。然萬國之大。文字各殊。語言互異。使不同者而至於大同。非通譯者不爲功。日本國夙稱君子。雅重斯文。我朝之經籍詩文。互相誦習。無有異同。方今文運日開。毫士蒸蒸益上。五方之書輻輳。問學之人日繁。雖雅好新奇。而新書尚少。惟英佛兩國之書。先哲已研求推究著成簡編。廣行於世。所謂有開必先爲後學津梁矣。茲不具論。而瀬之口松田村松三君。有志奮興。標新領異。必欲另出機杼。別開生面。於是苦心孤詣。竭力研求。見初出獨英獨蘭字典。併西人烏逸爾魯。忽福及之書。喜極忘勞。合四家之長。參互考訂。隨文循譯。纂成一書。名曰獨和字典。上之天文地理。經籍史傳。下極日用酬應。里諺閭談。悉行備載。鉅細不遺。使學者一覽瞭然。易於學習。其有益於世豈淺鮮哉。吾以知三君之功爲不少矣。不揣無文。綴爲之序。

同治十二年歳次癸酉孟夏　　吳中子勤錢懌識

写真 2　漢文の「序」

ー以下引用ー（カッコ内はルビ）

この扉裏(次頁)には頁の中央に「Gedmckt in der Amerikanisch Pres…byterianischen MiSSiOns Presse in Shanghai.」と 1 行のみ書かれ(図 3),その右頁には呉中子勤錢の「篤日本松田瀬之口村松三君獨和字典序」と題する漢文の序がある(図 4)。読み下すと以下の通りである。

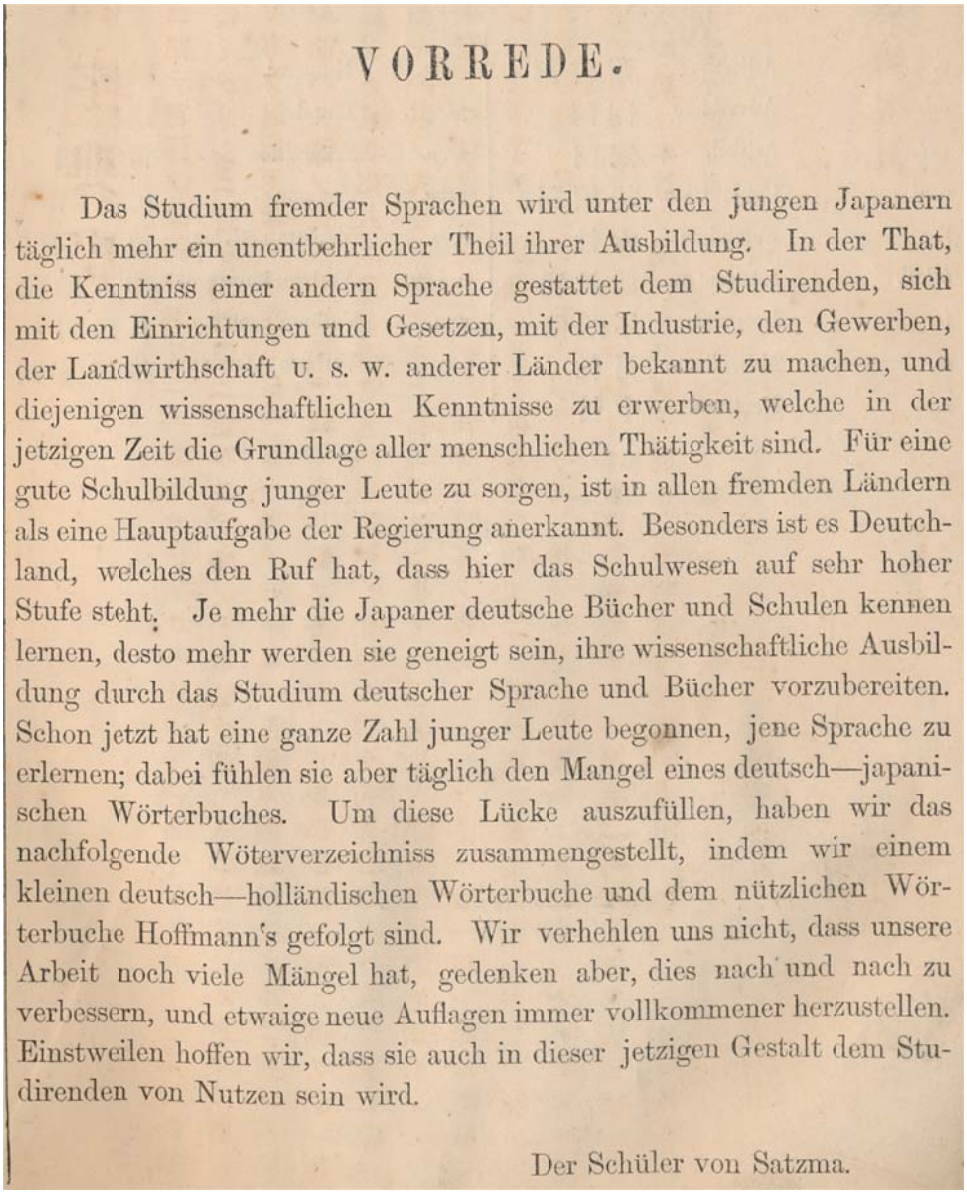
日本の松田・瀬之口・村松三君の獨和字典の為に序す

事の日用に於いて切なること,水火・菽粟の外（のぞ）く能は莫（ざ）るが如し。以て遠く行く可くして而して至る窮まり無き者（は）,文字に若くは莫（な）き也,古く者庖犧,一畫を以て天地の奇を洩し,河圖・洛書,相繼ぎ而出づ。鳥篆。虫章,延べ而替ふる勿し,後の聖人,勒（きざ）みて成書を為し,留めて永久に傳ふ。故に日ふ,今天下に車,軌を同じくし,書,文を同じくす矣と。然るに萬國の大く,文字各殊にして,語言互ひに異なる。同じから不（ざ）る者を使ひ而,大同に至らしむるには,通譯に非ざれ者巧を為さ不。日本國,夙に君子を稱し,雅（まさ）しくして斯文を重んじ,我が朝の経籍・詩文,互ひに相ひ誦み習ひて,異同有る無し。方に今,文運日（ひにひ）に開き,髦士蒸蒸として益す上る,五方の書輻輳して,問學の人日に繁し。雅しくして新奇を好むと雖も,而して新書尚ほ少し。惟ふに英・佛両國の書は,先哲已に研求・推究して,著して簡編を成して,廣く世に於いて行ふ。所謂,開ける有りて必ず先んじて後學の津梁為り矣。茲に具（つぶさ）には論ぜ不。而して瀬之口。松田・村松の三君,志有りて奮興し,標を新にし領を異にして,必ず另（わ）けて機杼を出だし,別けて生面を開かむと欲す。是に於いて苦心して孤り詣（すす）み,力を竭（つく）して研求す。初めて獨英・獨蘭字典,併びに西人,鳥逸薄魯（ウエペル）,忽福曼（ホフマン）の書を出せるを見る。喜び極まりて勞を忘る。四家の長を合はせ,参して互ひに考訂す。文の随に循（したが）ひて譯し,彙めて一書を成し,名づけて獨和字典と日ふ。上は天文・地理,経籍・史傳に之（いた）り,下は日用の酬應,俚諺・間談を極む。悉く行ひ, 備（つぶさ）に載せ,鉅細を遺さ不。學ぶ者を使て一覧せしめば瞭然たり。學習するに於いて易く,其の世に於いて益有る,豈に浅鮮たらん哉。吾以て三君の功少なから不るを知る矣。文の無きを揣（はか）ら不,縁りて之を序と為す。

同治十二年歳次癸酉孟夏　　呉中子勤錢懌識

信岡氏の論文によれば、この辞書は 1981 年に三修社から復刻版が出て、氏はそれを元に考察している。筆者が収蔵した辞書は 1981 年に復刻されたものはなく、その古さから明治 6 年（1873 年）に出されたものと思われる。この辞書は上海で印刷されたものである。信岡氏の論文によれば、本の大きさが記載されていて、復刻版は 22.3cm×15.7cm とある。筆者の手元にある表紙、裏表紙、背表紙のとれた状態で、23.1cm×15.7cm、厚さが 3.9cm である。厚さは表紙、裏表紙がないので参考にはならない。信岡氏の論文に出てくる、田中梅吉氏によるこの辞書の大きさは 22.5cm×17.5cm、宮永孝氏による大きさは 23cm×16cm、厚さ 4.5cm とあり、そのどれとも合致しない。この辞書はそれ自体が研究の対象になるほど歴史的に貴重なもののようだ。

この辞書には、薩摩の学生によるドイツ語の「序」があり、信岡氏の論文にはその和訳もある。これも引用させていただく。写真３がそのドイツ語部である。



VORREDE.

Das Studium fremder Sprachen wird unter den jungen Japanern täglich mehr ein unentbehrlicher Theil ihrer Ausbildung. In der That, die Kenntniss einer andern Sprache gestattet dem Studirenden, sich mit den Einrichtungen und Gesetzen, mit der Industrie, den Gewerben, der Landwirthschaft u. s. w. anderer Länder bekannt zu machen, und diejenigen wissenschaftlichen Kenntnisse zu erwerben, welche in der jetzigen Zeit die Grundlage aller menschlichen Thätigkeit sind. Für eine gute Schulbildung junger Leute zu sorgen, ist in allen fremden Ländern als eine Hauptaufgabe der Regierung anerkannt. Besonders ist es Deutchland, welches den Ruf hat, dass hier das Schulwesen auf sehr hoher Stufe steht. Je mehr die Japaner deutsche Bücher und Schulen kennen lernen, desto mehr werden sie geneigt sein, ihre wissenschaftliche Ausbildung durch das Studium deutscher Sprache und Bücher vorzubereiten. Schon jetzt hat eine ganze Zahl junger Leute begonnen, jene Sprache zu erlernen; dabei fühlen sie aber täglich den Mangel eines deutsch—japanischen Wörterbuches. Um diese Lücke auszufüllen, haben wir das nachfolgende Wöterverzeichniss zusammengestellt, indem wir einem kleinen deutsch—holländischen Wörterbuche und dem nützlichen Wörterbuche Hoffmann's gefolgt sind. Wir verhehlen uns nicht, dass unsere Arbeit noch viele Mängel hat, gedenken aber, dies nach und nach zu verbessern, und etwaige neue Auflagen immer vollkommener herzustellen. Einstweilen hoffen wir, dass sie auch in dieser jetzigen Gestalt dem Studirenden von Nutzen sein wird.

Der Schüler von Satzma.

写真３　薩摩の学生による「序」

このドイツ語の「序」の大意は次のようだとある。

序

外国語の習得は若い日本人の間では日毎にますます不可欠な教養となっていっている。実際多国語の知識は学究者に、他国の政治機構や法律、工業、商業、農業等々について通暁せしめ、今日の時代においてあらゆる人間活動の基礎となる科学知識を獲得せしめるのである。青少年の良き学校教育に意を注ぐことは諸外国において政府の主要課題と認識されている。特にドイツは、教育制度が非常に高い段階に達しているとの評判の国である。日本人がドイツの書物や学校を知れば知るほど、ますます日本の学問的教養をドイツ語と

ドイツ書の学習を通じて準備しようとする傾向を強めるのである。既に今日大勢の若者が彼の言葉の習得を始めているが、同時に彼等は独和辞書の欠如を日毎に痛感しているのである。この欠陥を埋めようと、我々はある小さな獨蘭辞典と有用なホフマンの辞典に従って以下の単語を集めた。我々は、我々の辞書がなお未だ多くの欠陥を持つことを隠さないが、之を漸時改め、将来いっそう完璧な新版を製作することを考えている。差し当っては、我々はこの辞書が今現在の形でも学徒に役立つと期待するものである。

薩摩学生

この辞書の価格は 15 円であったそうだが、その頃の巡査の初任給が 4 円、白米 10 キログラムの小売価格が 36 銭であったとある。この辞書がいかに高価なものであったかは想像に絶するものがある。今、これ等で換算すると、白米の場合には、この辞書は 20 万円ほどになる。また巡査の初任給で換算すれば 60～80 万円もするであろうか。

もっと詳しくは、信岡資生氏による「日独対訳辞書解題（三）（「成城大学経済研究、161」の P1－25）を参照いただきたい。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp